知多郡大高の長壽寺毎年製せらる、これ江州越溪茶の法にて尤佳品なり、

水野定光寺の茶は、京師花園の製に同じくして、又これ佳品なり、此兩所にて上製の茶を飲ば、氣味他に異なる事甚遠し、兩山ともに水も精絶なるゆへとぞおぼゆれ、

府下白林寺、毎年唐樣茶を製せらる、其精品に至ては兩山におとらず、水もすこぶる靈なり、

右四條は、我國同好の諸君子に玄ら玄むのみなり、他國の人は、他國の人境によりて製法を問ひ玉へ、

本朝にて茶を産する所おふけれども、第一とするは山城の國宇治の里なり、玄かれども煎茶においては、むかしより近江の信樂を天下第一と沙汰しあえり、無腸翁も宇治信樂はもろこしの上茶を出す、建溪北苑にもおとらずと、瑣言に玄るされたり、

信樂の上品にて、高翁の比にもてはやされたる茶の銘は、萬代、霜の花、湖水、花橘等なるよし、今は銘も堂上方より申くだして新銘を稱するもあり、又高名の君子によりて求たる銘もありて、其品目はかはれども、製法におゐてはむかしにことなる事なし

故人すべて信樂を賞せられしが、宇治なんぞ信樂の下におらんや、兩所の高下は、歌仙の人丸赤人のごとく、宇治は信樂の上たらんことかたく、信樂は宇治の下たらんことかたし、

つねに煎ずる茶、宇治にては喜撰、信樂にては信樂とゆふ銘の茶よろし、飲事は一等も上の茶よけれども、まづこれらこそ中品のよきものなり、

〔渡邊幸庵對話〕一煎茶駿州府中の曲里の右の方に作るよし、されど共人々呑料にする故に賣買にせず、安倍に水窪と云所あり、此所に作る茶至て極なり、然共木株少なし、是に差續て水見邑と云所の茶よし、是大方に水窪に對する也、其餘は茶料と云て、幅三里、長さ四十餘里、此所餘の物を不植、都て茶株也、是世にいふ阿倍茶也、運上も大分也、